

広島県立三次中学校・高等学校

三次市に生息するシカの食性及び行動特性の調査



三次市のシンボル巴橋

地域の協力で進めるシカの生態調査

研究の進め方は自主的に考える

2019年度から中学校を併設して中高一貫校となった広島県立三次中学校・高等学校では、その中学第一期生で現高校2年の片岡正江さんや上野杏夏さん、高校1年の長内洋夏さんから科学部がシカの食性・行動調査を行っている。きっかけは全国的にも問題になっているシカの食害だ。上野さんは「三次市もシカが多く、家庭菜園の野菜などが食べられて母が嘆いているので、何か対策ができないかと思いました」と動機を話す。

現在は財団の助成金で購入した20台のトレイルカメラでシカの行動データを収集しているほか、シカの胃の内容物調査などを行っている。これらの研究の進め方について、担当の中村拓哉教諭は「大学の先生などに聞きながらすべて生徒たちが考えています」と言う。



研究は中学2、3年生を含めた科学部総勢6名で進めている



広島修道大学で野生動物の生態学・管理学を研究する奥田圭先生に話を聞く



市内各地にトレイルカメラを設置

成果発表会で他校からも学ぶ

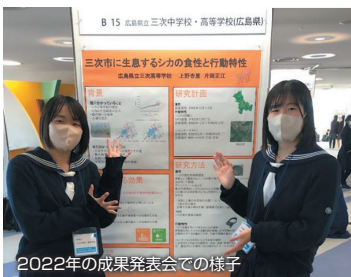
実際に「地元大学で野生動物の生態を研究する先生の連絡先を教えたら、すぐに会いに行き研究の進め方を教えてもらってきましたし、『胃をもらってきます』と軽い感じで猟友会の人から調査用のシカの胃を入手していました」（中村教諭）と笑う。

長内さんは「初めてアポを取るときは緊張しました」と言いつつ「自分たちの行動が次につながっていく感じが楽しかったです」と話す。同じく最初は緊張したという片岡さんは「去年参加した中谷財団の成果発表会で同じシカの研究をしている学校があったので、角の分かれ方などシカの特徴データやそのまとめ方を教えてもらいました」と他校との交流経験を話してくれた。

そんな話を聞いていた中村教諭は「人に聞くことで新たな知見を得られたことや、自分たちの行動で地域の人たちが動いてくれることなどが自信につながっているようです」と目を細めていた。（プログラム助成2日目）



シカの胃の内容物調査



2022年の成果発表会での様子



●実施担当

中村拓哉 教諭

●活動のモットー

「自分たちでやっている」と生徒が実感できるよう指導は最小限に。「先生が言っているから」と言われたらダメだと自戒している。

学校概要



「一校一和」の校訓と「誇りある三次中高らしい三次中高」をスローガンに、県北地域のリーダー校として教育に取り組む伝統校。

設立：1898年（2019年から中高一貫校）
生徒数：中学校236人、高等学校529人
所在地：広島県三次市南畑敷町155番地

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団

〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

中谷財団

検索

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

